

# 「デフォレスト先生ご召天十五周年記念祭」

—同窓生よりの二つの寄書—

若山晴子編・註

一九八八年七月一日、二日の両日にわたって、神戸女学院同窓会仙台支部の肝煎りで催された「デフォレスト先生ご召天十五周年記念祭」のあらましの報告は、すでに「神戸女学院学報」第九三号に発表したところであり、さらにまた本誌においても前稿の取り扱うところであるが、本稿ではそれらの補いを期して、特に、同窓生お二方の御厚情に甘え、それぞれの御文を史料として御提供いただいて、これを発表することにした。

お二方とは、溝口百合同窓会長と若松茂登美同窓会仙台支部長である。それぞれの内容はと言えば、溝口会長のものは七月一日の記念祭開会礼拝にひき続いて行なわれたデフォレスト先生追懷譚の全文（当日の録音テープに基づいて原稿化し、演者御自身に校訂をお願いした）、若松支部長のものは、この記念祭の報告を書くにあたり隠れた情報資料を求めて編者が出した問合せ状に対する返信（これも原稿化に際し御本人に校訂をお願いした）である。

これらの掲載にあたっては、それぞれの稿の末尾に編者の註を置く。多少冗慢の感もあるが、その時点に居合わせなかった人びとの理解をよりたやすくし、風化してゆく記憶をとどめるべく、ささやかな據り所を確保しておきたいと思うためである。